

本圀寺ほんこくじは、足利尊氏公あしかがたかうぢの叔父日静上人にちじやう住職の時、定額寺ちやうがくじとなる。靈宝れいはうには立像の釈迦しやくか仏、宗祖日蓮上人にちれんの真蹟、鴛鴦の曼荼羅まんぢら、これらみな世に名高し、其外祖師の真筆多し。徽宗皇帝きそうの狎ちんの画ゑ、同筆の三幅対、中は猫、左は■えのころ、右は羊なり、玄宗皇帝げんそう所持の筚篥びりく、耕作の画の屏風は狩野古法眼の筆、繫馬の二枚屏風は岩佐又兵衛の筆、廊下の半鐘は加藤清正まよひ朝鮮より持帰りてこゝに寄附す、其外名画古筆こそばく若干あり、繁多によつてこれを略す。寺中瑞雲院ずゐうんは、秀吉公寓居の古蹟なり、治世の後寺産百石を賜ふ、故に世に百石寺ひやくこくじといふ。又吉祥院にも秀吉公住し給ふ古趾あり。真如院の庭に瓜実燈炉あり、「これは足利將軍義昭公よしあきの銘なり」烏帽子石は義昭公烏帽子を掛置給ひしとなり、こゝに真如水という名泉あり、又円竜院の庭中奇境なり。